追悼

小川 彰
岩手医科大学名誉理事長・名誉学長

畑澤　順
Hatazawa Jun

2004～2016 年までの長い間，日本アイソトープ協会理事を務められた岩手医科大学名誉理事長・名誉学長小川彰先生が，2024 年 3 月 3 日にご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

本協会の使命は「放射性同位元素・放射線の応用に関する技術の向上及び普及」です。1987 年，日本アイソトープ協会は岩手県滝沢村（現滝沢市）に茅記念滝沢研究所を開設することができました。医療由来の医療 RI 廃棄物の我が国唯一の処理および保管施設です。さらに，1990 年 PET・PIXE の全国共同利用施設仁科記念サイクロトロンセンターを建設し，PET 研究を開始することができました。小川先生はじめ，岩手医科大学の全面的なご協力，地元自治体である岩手県滝沢市のご理解なしにはできなかったことです。ありがとうございました。改めて生前のご貢献に感謝申し上げます。

1978 年私は医学部 6 年生の時に，脳神経外科の臨床修練のため国立仙台病院と東北大学医学部附属病院長町分院で 1 か月間暮らしました。そこで先生に出会いました。先生は東北大学脳神経外科の鈴木二郎教授が命名し世界に知られるようになった「もやもや病（cerebrovascular moyamoya disease）」の脳循環を研究しておられました。^{133}Xe 溶液を静脈投与し，頭蓋からの放射線を計測し定量的に脳血流量を測定する手法です。病気を知るには正常を知らなければなりません。脳に病気のない二十数例の小児の脳血流量を測定し報告しました*。当時，小児の脳血流測定は世界で唯一無二であり，現在でも広く引用され続けています。

世界脳循環代謝学会が開催されたマイアミの浜辺を散歩しました。仙台郊外の泉岳スキー場のゲレンデで衝突しそうになったこともありました。勤務していた宮城県古川市の病院医局では，先生の学生運動の武勇伝を何度もお聞きしました。1992 年，先生は岩手医科大学医学部脳神経外科教授に赴任されました。

2009 年の *Isotope News* 3 月号掲載の先生の巻頭言を思い出します。「アイソトープの医学，医療利用の科学的 evidence 作りの研究を支援することも本協会の重要な責務であり，それを十分果たせなかったことに現在のアイソトープ利用の低迷があると言える。このことは, 国の政策のみならず日本アイソトープ協会にも責任の一端があるのではないかと思う」「日本アイソトープ協会もアイソトープの医学利用研究へのさらなる貢献を考えるべきと思う。まだ遅くない，今なら間に合うのである」 その通りです。

先生は，空が好きでした。蒼天を上昇するロケットが好きでした。先生の周りの者には，飛翔するロケットが先生のお姿に重なって見えていたことをご存じだったでしょうか。

最後に，盛岡城址にある歌碑の言葉を記して，先生を偲びます。

不来方のお城の草に寝転びて空に吸はれし十五の心
（石川啄木　歌集「一握の砂」）

（（公社）日本アイソトープ協会　副会長）

---

* Ogawa A, Sakurai Y, Kayama T, Yoshimoto T, Regional cerebral blood flow with age: changes in rCBF childhood, *Neurol Res*, **11**, 173-176（1989）